

甲南Today

2008 DEC NO. 32

甲友のリレーションで、未来を紡ぐ

甲南Today No.32

2008年12月10日発行

【発行】

甲南学園広報部

〒658-8501

神戸市東灘区岡本8丁目9-1

TEL 078-431-4241 (代)



甲南ボーイ空き巣を捕まえる。
一見普通の彼が見せた、本物の正義感。



「真の教育とは、人格の修養と健康の増進を重んじ、個性を尊重して各人の天賦の才能を引き出すことである」と提唱した、甲南学園創立者平生凱三郎。そんな平生の想いを込め、今、甲南学園で光り輝いている学生、生徒をご紹介します。

経営学部2年次

吉岡 直哉さん

資格取得、勉強、バイトと、大学4年間はやりたいことがいっぱい。
「甲南大学はアットホームで、人との出会いが多くていいです」。

経営学部の吉岡直哉さんは、ある日の昼下がり、住宅街を歩いていた。すると突然、走って逃げる男と、「捕まえて」と叫びながら追いかける女性を目撃した。とっさに「泥棒だ！助けなければ」と、約30メートル追いかけた末、近くの駐車場で男の両腕をつかみ、見事取り押さえた。男は、空き巣の常習犯。吉岡さんには、警察から感謝状が贈呈された。とっさの判断と行動がお手柄につながったのだ。顕彰する大学や友人など、周囲の「すごい」という賛辞を尻目に、「特別なことをしたとは思ってないので、戸惑っています」と、はにかむ吉岡さん。至って謙虚だ。「自分はどちらかという優秀な性格、普段は、モノを買うのにもすごく時間がかかるんです」と語る。これまで話を聞いても、まったく普通の学生といった感じである。本人の身の危険を考えると、大学としてはやや冷や汗ものではあるが、彼がとった「無意識の」行動こそ、彼の正義感が本物である証ではないだろうか。

そんな彼が今熱中しているのは、ボクシング。つい最近習い始めたところで、空き巣を捕まえたその日も、この目のレッスンのためにボクシングジムへ通う途中だった。「いつかプロテストにも挑戦したいんです」。ところが、めざしている職業はまったく別の分野。資格を取得して、税理士か公認会計士になることを目標にしているそうだ。「ボクシングも、難関資格もそうですが、目標を設定して努力することが好きなんです」。非常に現実に堅実な吉岡さんが、危険を顧みず無意識のうちに発揮した正義感。その絶妙なバランスが甲南ボーイらしいところかもしれない。



本学も、吉岡さんの手柄を讃えて顕彰した。



神戸警合署長より感謝状が贈呈された。



インターネットで甲南へ

<http://www.konan-u.ac.jp>

〈特集1〉甲南キャリア教育最前線

〈特集2〉今も思い出す甲南の先生たち



岡本キャンパスの冬

撮影・柚実

<http://www.yoshiyuzumi.com/>

甲南Today
No.32 2008 DECEMBER

WHAT'S NEW
KONAN

2 これからの社会をリードする、
甲南大学の研究者たち。

6 こちら甲南特搜部

みなさまから寄せられた疑問を徹底調査！
甲南大学にアートギャラリーが
あるってホント?! 誰でも行けるの?!

3 「甲南平生国際
フォーラム」を開催。

7 今、自分に挑戦する甲南大生

甲南大生による写真展
「ウガンダ共和国の笑顔と現実」が開催。

9 (特集1) 甲南キャリア教育最前線

11 時代を駆け抜けた卒業生
ひとつの時代を築き、新たなスタートを切る卒業生たち。

13 (特集2) 今も思い出出す甲南の先生たち

15 高・中TOPICS
幅広く活躍する、
文化系クラブに注目!

17 なるほど! KONANアカデミア

典雅なる世界へ誘う古典文学の魅力

16 フランス甲南学園トウレーヌだより
芸術の本場に挑む乙女たち

19 創部から未来へ甲南クラブステップ

挑戦が生んだ交響楽団の歴史。
その精神は、受け継がれる。

21 IT'S KONAN STYLE

今も思い出すのは、同じ目標を持つ仲間たちと
ともに前進した甲南時代。JALキャビンアテンダント 伊達 香緒里氏

24 甲南フォーラム



裏表紙 ONLY ONE 個性を力へ



【表紙の絵】西井 義晃 画

【5号館北側よりのぞむ、体育会部室棟】

西井 義晃さん プロフィール 1961年甲南大学経済学部卒業 元自由美術会員

右記のURLで作品集をご覧ください <http://webgarou.net>

甲南大学から
4名の教授が、
日本学術会議連携会員に
新たに選ばれました。

科学が文化国家の基礎であるという確信のもと、行政、産業及び国民生活に科学を反映、浸透させることを目的に活動を行う「日本学術会議」。内閣総理大臣の所轄で、政府から独立して職務を行う特別機関として、昭和24年(1949年)1月に設立されたこの日本学術会議の連携会員として、甲南大学から4名の教授が選出されました。

その名譽ある連携会員となったのは、井野瀬久美恵教授(文学部)・学長補佐、濱谷和生教授(法科大学院)、倉持孝司教授(法科大学院)、園田寿教授(法科大学院)の4名です。日本学術会議は、全国にいる人文科学、社会科学、自然科学の分野における約82万人の科学者の代表として、会員による推薦、または優れた研究実績を残した科学者だけが、日本学術会議会長によって選ばれる、名譽ある大任といえるでしょう。

この機関では、(1)政策提言、科学に関する審議、(2)科学者コミュニティの連携、(3)科学に関する国際交流、(4)社会とのコミュニケーションなど、日本学術会議が取り組むさまざまな課題についての審議活動、国際対応等に積極的に参加することが期待されています。

なお、本学からは、すでに佐藤文隆教授(特別客員教授)が日本学術会議連携会員に選ばれております。

これからの社会をリードする、
甲南大学の研究者たち。

ノーベル経済学賞受賞者との
共同研究・共著の出版など、
今後の活躍にさらなる
期待が高まる藤田昌久教授。

ところで、甲南大学に

は、すでに日本学術会議
の正会員として選出され
ている教員も2名いま
す。一人は、櫻田嘉章教授
(法科大学院)、もう一人



が、藤田昌久教授(学長直屬特別客員教授)です。

藤田教授は、日本の経済学の第一人者であり、先日発表された、2008年度ノーベル経済学賞を受賞したポール・クルーグマン米プリンストン大学教授と共同研究を行い、「空間経済学」などの新分野を開拓、大きな業績を残しています。また、クルーグマン教授と共著の論文も発表しており、それらは、世界の有力学者に数多く引用されています。今年、日本人の受賞ラッシュとなったノーベル賞ですが、経済学賞だけは歴史を遡っても日本人受賞者がいません。日本の経済学は、先行する欧米の研究をもとに発展させたケースが多かったため、「輸入学問」としての地位に甘んじてきたといわれています。

本学で教鞭を執る一方、独立行政法人である経済産業研究所(RIETI)所長、日本経済学会副会長(平成21年度より会長に就任予定)、理事など要職も数多く務める藤田教授。これからの研究にますます期待が高まります。

藤田教授の研究については、今後、当「甲南Today」で詳しくご紹介させていただきます。ご期待ください。

「甲南平生国際フォーラム」を開催。



10月17日、甲南学園創立90周年を記念して、甲南平生国際フォーラム第1回シンポジウムを神戸ポートピアホテルで開催しました。テーマは、「アセアンから見える日本、日本から見えるアセアン」。赤尾信敏日本アセアンセンター事務総長による基調講演と、インドネシア、タイ、ベトナムの三総領事による講演、パネルディスカッションの3部構成で行い、当日は、定員をはるかに超える350名の皆さまにご参加いただくことができました。ありがとうございました。

「東洋一の大学」をめざして、アジアとの人間的交流を深めていきたい。

甲南大学長
高坂 薫



甲南平生国際フォーラム開催にあたって
わが甲南学園の創立者は実業界の雄であり、文部大臣を歴任しました平生三郎先生(以下「平生」)です。平生は、90年前、旧制の甲南中学が開校された1919年4月21日の日記の中に、「東洋一の大学を創立すること」を建学の理念として掲げています。そればかりか、その大学は「人物教育を率先する」と言っており、私は、なぜ「東洋一」なのか、なぜ「人物教育」なのかというところにこだわります。明治時代半ば30代で東京海上火災保険に勤務し、その後ロンドンで滞った平生は、かねてから教育界に関心を示し、やがては自分も貢献したいと思っていました。イギリスでは、学校の教育現場にも大いに関心を示し、市民社会を形成しているパブリックスクールの自由と規律の人格教育に学び、スペンサーの徳育・知育・体育といった三位一体の教育論にも影響を受けています。

大正時代に入って、日本は日露戦争、第一次世界大戦の曲折を経て大正デモクラシーの社会になりました。ところが、上層部では、官公庁のエリート官僚の汚職や腐敗が蔓延していました。これは知識詰め込み教育が優先される受験教育、学歴だけで判断され、身勝手な横行している社会が悪いのだ、と平生は断じます。そこには礼節もモラルもないと嘆いています。

この現状認識が平生の教育的情熱をかき立てます。この阪神間において、人物教育を率先し、東洋一の大学につながる甲南中学校を創設しました。しかし、イギリスの自由と規律

の教育を単に模倣したのではありません。平生の血に流れる武士道の精神、つまり恥を知ること、あるいは正義や礼節が、学んできた西洋のリベリズムに組み込まれ、和魂洋才の品性を重んじる人格教育を積み出し、日本の徳、東洋の精神などが含まれた、独自の徳育教育が甲南学園で実践されました。然るにこの東洋一であり、またまだ日本やアジアでは、欧米列強の植民地として収奪され、差別を受け、独立国家としての体をなしていない。まだデモクラシーや自由や権利、義務といった社会からほど遠い。まだ民主的な人格教育も施されていない。という認識が、平生にはありました。そこでまず日本が理想的な人物教育を先駆的に立ち上げることが東洋のモデルになるのではないかと、欧米社会に拮抗できるのではないかと考えた訳です。だから東洋一の人物教育を施す大学を想定し、理想を掲げたのです。

さてこの平生の建学の夢は今どこ甲南平生国際フォーラムに生かされています。私たちは今年から来年にかけてこの国際フォーラムでさまざまな国を取り上げ、世界に学ぼうと、全方位的に欧米もアジアも取り上げていきたいと思います。まずは東洋一の大学をめざす平生の建学理念に注視し、人物教育を検証し、人間のあり方を探ろうと思ひ、私たちは90周年のイベントにふさわしく最初に東洋、つまりアジア、アセアンを取り上げました。いま甲南大学は平生のめざしたアジアへの関心を強く意識して、アジアとの人間的付き合いを、シンポジウムを通して、探り、深めていこうと思っています。

基調講演 パネル ディスカッション

「アセアンから見える日本、日本から見えるアセアン」 日本とアジアのこれらについて、熱い議論が交わされました。

基調講演では昨年設立40周年を迎えたアセアン(東南アジア諸国連合)の現状と将来についての話が展開され、インドネシア、タイ、ベトナムの三総領事による講演では、日本企業の進出の必要性や、日本との人的交流の重要性が指摘されました。

パネルディスカッションでは、①アセアン加盟国から見えるアセアンの将来像、②アセアンと中国の政治・経済関係の将来展望、③アセアンとインドの政治・経済関係の将来展望、④アジアのダイナミズムの中で日本企業が取るべき戦略、⑤アジアのダイナミズムを活用した関西経済の活性化、の5つの視点から議論されました。

最後に、パネルディスカッションのモデレーターを務めた経営学部・安積敏政教授より、1997年、タイの金融危機に端を発したアジアの経済危機から10年間、アジア各国はこの経済危機を克服



服し、再び成長路線を走っている。そこで、貿易や直接投資や人的な交流などアジア全体の中の相互依存度が増えています。また、この10年間、中国のプレゼンスが大きくなり、インドも急成長を見せる中で、最近ではアセアン加盟国への世界の注目が再び集まっています。一方、日本、中国、シンガポールは、今後の経済成長の制約となる少子高齢化の問題にぶつかり、また、アジア全体は、省エネルギーや環境対策といった課題を抱える。今後もポータラシ化、相互依存度を増すアジアや世界の流れは大きく変わらない。そうした中で日本の役割を変化させることが期待されている。同時に熾烈な国際競争の中で、日本の得意分野をどこに持っていくか、いかにアジア各国と共存共栄を図っていくかが、いま問われており、さらに議論を深めるべきであるとの総括があり、次回以降のシンポジウム期待が寄せられました。

WHAT'S NEW KONAN

パネリスト



国際機関
日本アセアンセンター
事務総長
赤尾 信敏氏



在大阪
インドネシア共和国
総領事館総領事代行
モセス・タンドゥン・
レラティン氏



タイ王国
大阪総領事館総領事
スポット・
イサラーン・
ナ・アユッタヤ氏



在大阪
ベトナム社会主義共和国
総領事館総領事
レー・ドゥック・
リュウ氏

モデレーター



甲南大学
経営学部教授
安積 敏政

総合司会

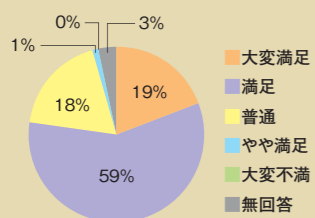


甲南大学
学長補佐・文学部教授
井野瀬 久美恵

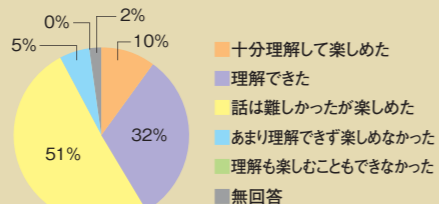
シンポジウムへの高い評価をいただきました

シンポジウムには多くの学生も参加しました。学生にアンケートを実施したところ、満足できたという声をたくさんいただきました。早くも第2回への期待が高まっています。

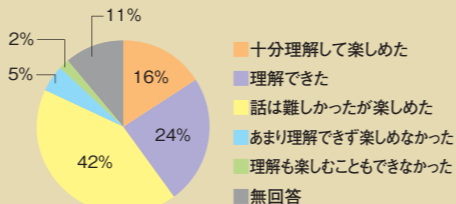
全体について



基調講演、ならびに総領事の講演について



パネルディスカッションについて



甲南学園創立90周年記念
甲南平生国際フォーラム特別企画

貴志康一・生誕100年記念 シンポジウムとコンサート 「時空を超える貴志康一―音楽が拓く未来」

2009年1月18日(日)13時より、学校法人甲南学園 朝日新聞社共催でシンポジウムとコンサート「時空を超える貴志康一―音楽が拓く未来」を新神戸オリエンタル劇場で開催します。

基調講演は貴志の伝道師として有名な指揮者の小松一彦(大阪芸術大学大学院教授)が、「貴志康一とその時代」というテーマで貴志の音楽の背景にある時代相や、ヨーロッパで花開いた貴志の感性豊かな音楽の魅力について語ります。

パネル討論では基調講演をうけて、貴志の音楽を21世紀の現代、どうすれば教育や関西の文化の活性化に生かせるかなどについて語り合います。パネリストは小松一彦のほか中嶋彰子(ソプラノ歌手)、小野高裕(大阪大学大学院准教授・阪神間文化史研究者)、日下徳一(甲南高等学校元教諭)。

貴志記念室元創設委員。また特別ゲストとして渡辺シズエ(貴志の妹)と古田悠子(フルート奏者)の親族2人も加わります。コーディネーターは井野瀬久美恵(甲南大学学長補佐・文学部教授)。

コンサートでは中嶋彰子(ピアノ・松本和将)が先ず貴志と同時代に生きたシェーンベルク、ヒンデミット、シュトラウスなどの歌曲を披露し、貴志の「かもめ」「かごかき」など7曲を歌います。ピアノの松本和将は貴志がベルリン時代親しくしていたヒンデミットの「ピアノ・ソナタ第一番(「メイン川」)より第4、5楽章を独奏。フルートの古田悠子(ピアノ・増田明子)は貴志の作品の中で最も有名なヴァイオリン曲「竹取物語」と「月」をフルートに編曲して演奏します。

(敬称略)



募集 450人(無料/予約制)

●申込み方法
郵便番号・住所・氏名(フリガナ)・電話番号・年齢・性別を明記し、下記の方法でお申込みください。後日聴講券をお送りいたします。応募者多数の場合は抽選とさせていただきます。

往復はがき

〒658-8501 (住所不要)
甲南学園 貴志シンボ係
往復はがきの返信はがきには、宛先(ご本人の住所・氏名)のみご記入ください。

F a x 078-435-2546
Eメール kishi@adm.konan-u.ac.jp
ホームページ http://www.konan-u.ac.jp/

●申込み期間
12月1日(月)～12月22日(月) 必着

●問合せ
甲南学園広報部
〒658-8501 神戸市東灘区岡本8-9-1
Tel 078-435-2628 (平日9:00～17:00)



甲南大学に アートギャラリーがあるって ホント?! 誰でも行けるの?!

みなさまから寄せられた疑問を徹底調査!
こちら
甲南特捜部



川田教授のバックに見えるのがギャラリー・パンセのアートスペース。

本当です。どなたでもお越しいただけます。
甲南大学では、5号館1階にアートギャラリー「ギャラリー・パンセ」(以下「ギャラリー」)を設置しています。同じ5号館1階にもともとあったカフェの名称がフランス語で「思想、思い」という意味の「パンセ」を用いているということで、「ギャラリー・パンセ」とフランス語で命名しました。

今回の案内役は、文学部人間科学科の川田都樹子教授(写真)です。川田教授は、現代美術論や芸術学と芸術療法などを研究しており、通常の講義のほか、学芸員の資格を取得するための講義も担当しています。

Galerie Pensee
ギャラリー・パンセ

ロゴは宮川智美さん(当時 文学部人間科学科)によるデザインです。

ギャラリー・パンセ

お問い合わせ(平日:9時～17時まで)
078-435-2673 (甲南大学文学部事務室)
http://www.konan-cdc.jp/pensee/index.html

ギャラリーでは、教員及び学生が選んだアーティストや学生・卒業生・教職員の方々の作品を展示しています。非常に個性的で素晴らしい作品の数々をご覧いただくことができますし、カフェの横にありますので、「ちょっと甲南大学へお茶でも飲みに行こうかしら」という気軽なお気持ちでお越しただけならと思っています。カフェには軽食もありますので、サンドイッチをほおばりながら芸術鑑賞をしていただくこともできます。ともすれば敷居が高くなりがちな「芸術」というものを身近に感じてほしいですね。

実は、このギャラリー、学内外のみなさんに芸術作品を楽しんでいただくだけでなく、学生の教育にも重要な役割を担っています。ギャラリーは、文部科学省に認められた「学芸員の資格を取得するための実習の場」としても機能しているのです。西宮市の大谷記念美術館の池上司先生と、甲南大学教員の指導のもと、学生たちは作品展のコンセプト及びストーリーづくり、展示のバランスやデザインといった企画から実施までを体験学習します。

また、プロのアーティストを講師とした講義も行っています。アーティストの指導のもと作品をつくり、学生が自分の持つイメージを形にしていける方法論などを学習するのです。講義の方法も芸術家らしく、自分の気持ちを彫金で表現させたり、ラブレターを書かせたりと、とにかくユニーク。たとえば、今年の夏に講義をご担当くださった館勝生さんは、「ほんもの

の自己表現」を課題としました。「誰もが言うことを言っているだけではだめ。あなたでなければできない表現を」と学生を指導してくださる姿は真剣そのものです。学生一人ひとりの個性に合わせた助言を丁寧にしてくださるのですね。知識と体験、そして感動を得られるギャラリーを舞台にした講義。現場で作品とアーティストに直接関わり学ぶことは、学生にとって非常に有意義で、得るものも多いと思います。

「今後は、もっと地域の方に愛されるギャラリーに育てていきたいですね」と語る川田教授のことばには、学生とギャラリーを大切に思う気持ちがあふれていました。



すぐ側には「カフェ・パンセ」も併設。シアトルスタイルのカフェメニューやハンバーガーランチも楽しめ、学生たちの人気スポットとなっています。

カフェ・パンセ

【営業時間】
平日:10時～19時
土曜:11時～13時
※オーダーストップは、閉店30分前です。また、授業休止期間中は、営業していません。

【お問い合わせ】
078-411-7905
(甲南大学生協レストラン)

貴志康一・長谷川三郎の魅力に触れるイベントが開催されます。

大阪フィルハーモニー交響楽団 貴志康一・バースデーコンサート

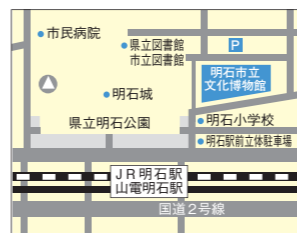
【主催】大阪府都島区 貴志康一事業運営委員会
【場所】ザ・シンフォニーホール
【場所】2009年3月31日(火)19時開演
【指揮】小松一彦 「ヴァイオリン」小栗まこと 絵
【ソプラノ】坂本環
【演奏曲目】歌曲「天の原」「力車」「赤いかんざし」「かごかき」
「ヴァイオリン協奏曲(交響曲) 仏陀」
「チケット」A席4,000円(前売り3,500円)
B席2,500円(前売り2,000円)
【問合せ】大フィル 06-6556-6489

明石市立文化博物館 新春特別展 日本抽象のパイオニア 長谷川三郎展

日本における抽象芸術の先駆者・長谷川三郎は、神戸、芦屋で青春時代を過ごしました。甲南高校卒業、東京大学で美術史を修めた後に渡欧。父の死により帰国してからは、画家としてだけでなく、評論や思想家としても活躍しました。
この特別展では、甲南学園の長谷川三郎ギャラリー所蔵の平面タプロー、素描、立体作品、その他新発見を含む資料に加え、国内に残る代表作をお楽しみいただけます。

2009年1月4日(日)～2月8日(日)

- 明石市立博物館学芸員によるギャラリー・トーク
1月10日(土)14:00～ 1月31日(土)14:00～
- 特別講演会
講師:河崎晃一(兵庫県立美術館)
1月17日(土)14:00～ 2階会議室(定員100名)
- 新春ロビーコンサート
うた:三好啓子 ピアノ:阪田みゆき
1月25日(日)14:00～
- 問合せ
明石市立文化博物館 Tel 078-918-5400



電車 JR・山陽電鉄明石駅より北へ徒歩5分
自動車 第2神明大蔵谷出口より南西へ10分
第2神明伊川谷出口より南へ10分

今、自分に挑戦する
甲南大生

甲南大生、玉田孝介さんによる写真展 「ウガンダ共和国の笑顔と現実」が開催。

10月31日(金)から11月13日(木)の2週間、甲南大学のアート・スペース「ギャラリー・パンセ」にて、文学部の学生、玉田孝介さんによる写真展が開催されました。
玉田孝介さんは、2度のウガンダ共和国訪問でボランティア活動を体験。そこで知った真実を、多くの人に伝えたいという思いが写真展という形となって実現したものです。
そこで今回、ボランティアに従事する玉田さんに、写真展に込めた想いとボランティア経験などについてお話を伺いました。



甲南大学で学べるのは、
多くの人の支えがあってこそ。
今度は僕が、その恩を返す番。

ウガンダ共和国の現実をとらえた、数々の写真が展示されました。



*I'm poor, but I'm happy. Because I can live today.
Therefore I'm with you, Kosuke.*

「貧しくたって幸せ。だって今生きてるから。
孝介と一緒にいられるのも、生きてるからこそだもんね。」



水をくむ少女。この水は飲料水としても用いられます。



親を亡くした子どもたちとつくったサッカーチーム。ピニールを何重にも巻いてできたボール・デコボコのグランド・レンガのゴール・それでも深まった。絆。

Message

写真展を開催するにあたり、父母の会様と井野瀬先生にたくさんのご寄付をいただきました。この場を借りて、お礼申し上げます。正直、甲南大学は自分に合わないんじゃないかと思ったこともありましたが、「ひとりの人間として付き合える友達」がたくさんできて、気持ちが変わりました。また、前述の井野瀬先生や中村耕二先生のように、私を人として成長させようとしてくださる先生ばかりで、今では甲南大学に入って良かったと思っています。

玉田 孝介 文学部4年次

甲南大学入学と同時に「あしなが学生募金関西事務局」の活動に参加し、現在局長を担当。関西を中心に、幅広くボランティア活動を展開。玉田さんは、心臓病患者であるウガンダの少女ナニヤンゲちゃんの手術費用を集めるための募金活動もし、術後の残金を心臓病の子どもたちを支援する「明美ちゃん基金」に寄付したことで、2008年6月18日付の産経新聞朝刊に掲載されました。なお、ナニヤンゲちゃんの手術は無事に成功しました。
<http://sankei.jp.msn.com/life/trend/080617/trd0806172129013-n1.htm>

私にとつてのボランティアとは。

私は、幼い頃に父親を亡くし、いろいろな人たちに助けられてきました。
大学生になったら、感謝の気持ちをボランティアという形でお返ししていきたい。そういうった動機で、「あしなが学生募金」*をはじめとするボランティア活動を始めました。

私のボランティア活動は、心のケアが中心。物には限りがありますが、心のケアは受けた人に生残るうえ、ケアを受けた人が別の人をケアし、さらにその人が誰か別の人を助けるといったケアの連鎖が起こるからです。そしてそれは、私自身を助けてくださったいろいろな人に恩返ししたいと思つてはじめたボランティア活動の原点そのものなんです。

写真展に込めた想い、
ウガンダのこと。

今回の写真展では、東アフリカ・ウガンダ共和国でのボランティア活動を記録した写真を展示しました。ウガンダのような国のは、メディアを通じてなどではなかなか真実が伝わりにくい。でも、私は、甲南大学の人に、自分が見たものを知ってほしいと思ひ、写真展を企画しました。

私は、2006年4月からの1年間と2008年8月からの1カ月間、2度にわたつてウガンダ共和国を訪問。そこで暮らす、病気や事故によって親を亡くした子どもたちの「心のケア」をすることが目的でした。父を失った自分だからこそ、親のいないウガンダの子どもたちと同じ目線に立つことができると思ひました。ところが、「豊かな日本で育ったあなたと自分たちとは、親を失うことの意味は大きく違う。あなたにウガンダ人の気持ちは理解できない」と、訪問する先々で追いつかされてしまったのです。後で知ったことですが、ウガンダでは父親を失うことは死活問題。私が想像するよりはるかに事情は深刻だったので。私はウガンダへ行った目的を失つてしまい、失望のどん底でした。しかし、「いや、

沈んでいる場合じゃない。自分には何ができる？」それを必死で考えた結果、一軒一軒家庭訪問をし、嘘偽りなく気持ちを伝えることにしました。「まず、自分を信用してもらえよう」ということからはじめよう。そんな一心でした。断られようが、怒られようが、自分の気持ちや伝えるまで何度も訪問を重ねました。ある家庭を再度訪問したときのことです。「この人と理解しあえる最後のチャンスかも知れない」と思いながら無我夢中で話していると、いつしか自分の目に涙が溢れていました。その瞬間、私の気持ちが伝わったのか、「ここまで近く歩み寄つて来てくれたボランティアは孝介が初めてだ」と私を受け入れてくれたのです。気持ちが通じたその瞬間は、言葉にできないほどうれしかったですね。

ウガンダでは、小学校で英語と日本語を教えたほか、地面を掘つてトイレをつくる手伝いや、子どもたちとサッカーチームもつくりました。手づくりのボールを通じて、彼らとの絆は確実に強くなっていきました。

本当の笑顔を増やしたい！

ウガンダでの日々を通じて、自分の中にひとつ、確かに見えた行動指針のようなものがあります。ウガンダの子どもたちは笑いたいときにしか笑わない。その笑顔はまるで太陽のような、本当の笑顔。なので、それを見たと、私の中に幼少期の記憶が蘇りました。父が亡くなったとき、母親はなぜかいつもニコニコして、私は子ども心に不思議に思っていました。「お母さんは悲しくないのか？」と。でも、ある夜、母が声を殺して泣いているのを見てしまったのです。そう、母は私たちが不安にさせまいと、つくり笑いをしていたのです。私は、まわりの人から心から笑っていてほしい。そう強く思います。これからも継続していくボランティア活動をはじめ、本当の笑顔、をひとつずつ増やそう生きていきたいですね。

今も時おり、ウガンダの仲間たちや子どもたちをのことを思ひます。「ごはんを食べているかな」「学校へ行けるかな」と…。

*民間としては日本最大の募金活動団体。その募金は、奨学金育英事業団、あしなが育英会を通じて、貧困の追いつたために役立てられます。

学生たちが語る メディア人養成セミナー、 甲南ロードの魅力。

キャリアセンター主催のメディア人養成セミナー「甲南ロード」。第一線で活躍する各界著名人をゲストに迎えるこの講座。メディア・マスコミ業界への進出をめざす学生たちが、どのように学び、どのように成長をしているのか。実際に甲南ロードを受講した3人の学生に聞いてみました。

第一線で活躍する、 個性的な講師陣が魅力。

—— 朝日放送株式会社総務局局長・番組審議会事務局長の小関道幸さんをはじめ、映画監督の塩屋俊さん、トップモデルのアン・ミカさんなど、一流のメディア人が講師を務める「甲南ロード」。皆さんは受講者第1期生になるわけですが、実際に受講した感想や印象を聞かせてもらえますか？

神谷 マスコミ・メディア業界の著名な方が講義をされるのですが、仕事への情熱に圧倒されるばかりです。

「情報」が人に与える 影響力を意識するよつこ。

経営学部4年次
吉田 心さん
甲南大学メディア研究会会
長を担当。自らの就職活動
を生かし、3年次をサポート。



神谷 講師の方々は、私たちを、学生、ではなく、ひとりの人間として見てくれます。学生だからといって決して手を抜かず、レポートの発表や意見に対して手厳しい指摘をされることもあります。ですが、学生の挑戦や提案には全面的にバックアップしてくれます。

吉田 私と神谷さんが、マスコミ・メディア業界への就職をめざす学生たちが交流する機会をつくりたいと考え出したときも、「面白いからぜひやってみなさい」と、いろいろな方向性や可能性を示していただきました。

—— そのひとつが「甲南メディアキャンプ2008」～メディアへの道～ですね。

神谷 そうです。インターンシップを終えた9月に、1泊2日で平生記念セミナーハウスで行いました。プランニングや企画書作成、会場の確保、当日特別講義をしてもらう方を探したりと、初めて経験することはかりとてにかく大変だったのを覚えています。

吉田 自分たちが、いかに何も経験してこなかったかということがイヤというほどわかりました(笑)。初日は、学長補佐の井野瀬先生からの開講の挨拶でスタートしました。参加者全員が、体験したインターンシップの内容を発表したので、実際の就職活動で役立ちそうな情報をたくさん得ることができました。

神谷 この一件以来、何事にも積極的に行動できるよつこになり、専門知識よりも大切な社会に役立つ考え方や行動力が身についた気がします。10月に行われた甲

メディア人が持つ

仕事への情熱に脱帽。



文学部3年次
神谷 光華さん
甲南メディアキャンプの発
起人であり、甲南大学メ
ディア研究会代表も担当。

た。3日間寝ずに働き続け、上司から寝るよつこ命じられたり、結婚式当日も働いて「さっさと会場へ行け！」と怒られたりなど、今は最前線で活躍されている方々のエピソードを聞いて、私もがんばろうと思えました。でも、最初はその熱心さについていくのに必死でした。

福田 講師の方々は、今までに出会ったことのないタイプの方ばかりで、考え方の視野が広い。講義は聞き応え十分で、興味津々で受講していました。第一線で活躍されるプロの観点や感性の違いを感じることもができるのも甲南ロードの魅力だと思います。

吉田 プロと言えば、私はモラルの高さを感じました。メディア人とは、多くの人間に影響を与えてしまう「情報」を取り扱う重要な存在だからこそ、一つひとつの言動や行動に責任を持たなければいけないことを教えられ、私も自分の行動が、周囲にどう影響するかを意識するようになりました。

学生の挑戦を受け止め、 積極性を養成。

—— 自分の中で変わったことや、成長したと感じることはありますか？

南平生国際フォーラムでも、学生記者として、総領事の皆さんに取材をしたことも大きなステップアップです。

福田 僕もメディアキャンプのお手伝いをさせていただきましたが、ふたりを見てみると行動することの大切さを実感し、積極的に行動しようと思いました。

講師の方の講義は、 他では聞けない情報が満載。

法学部3年次
福田 晃大さん
甲南メディアキャンプの手
伝いがきっかけで、甲南ロ
ードを受講することに。



—— これからの抱負や活動の予定はありますか？

神谷 勢いに乗って「甲南大学メディア研究会」というサークル団体も立ち上げました。

吉田 メディア・マスコミ業界をめざす学生たちが集まり、情報交換の場にしていく予定です。こんなことを企画し、実践できたのも甲南ロードに参加した成果だと思います。

神谷 あと、やっぱり結果を出していきたいですね。私は広告やTVコマーシャルなど、ものづくりに携わる業界をめざして勉強中です。

福田 僕は甲南ロードで学びながら、じっくり進路を見つけていこうと思います。

—— 甲南ロードを通じて、皆さんのよつこに積極的な学生が増えれば、ますます甲南大学のメディア・マスコミ志向は盛り上がると思います。今日はどうもありがとうございました。

マスコミ・メディア業界をめざし、 新たな活動にも着手。



他の
メンバーたち

甲南大学メディア研究会

メディア・マスコミ業界で活躍されているご卒業生と連携し、メディア・マスコミ業界をめざす後輩を支援する文化系サークル団体。会員数は現在のところ13名。学生の視線で、メディア・マスコミ業界を研究すると同時に、多彩な活動を通して、甲南大学および地域のメディアへの関心を高めていきます。

甲南メディア研究会の
活動をレポート!

甲南平生国際フォーラム
に記者として参加。各国総
領事へのインタビューな
どを体験しました。



甲南メディアキャンプ2008 ～メディアへの道～

甲南ロードを受講し、メディア・マスコミ業界への進出をめざす学生が集まり、お互いを刺激し、高めあう交流会。インターンシップのレポートを通じて、情報の交換やプレゼンテーション能力を養成します。メディア業界だけでなく、社会で必要とされる自分の考えや思いを人に伝えるスキルを身につけていきます。

甲南ロード (メディア人養成セミナー)

メディア・マスコミに興味を持つ3年次を対象とした特別セミナー。外部から第一線で活躍されている様々なメディア人を講師として招きます。テレビ・web・ゲームなど、多彩なメディアのテーマについて講義を行います。また、1・2年次を対象とした「甲南ファーム」も展開しています。

ひとつの時代を築き、 新たなスタートを切る卒業生たち。

全国で活躍する多くの甲南大学の卒業生たち。それぞれに人生があり、その中には、今まさに、ターニングポイントを迎えた卒業生もいます。そこで今回、ひとつの時代を駆け抜け、新しいスタートラインに立つ卒業生の方にお話を伺いました。



こじま もとが
小島 初佳さん
(旧姓新井)

1997年文学部卒。大学時代は体育会陸上競技部に所属。女子100m・200mの元日本記録保持者。1997年に甲南大学を卒業し、ピップフジモト(株)に入社。女子100m・200mで日本記録を更新。日本選手権では、女子100m7連覇、女子200m6連覇の偉業を達成。世界陸上には3度出場。2008年9月28日の全日本実業団対抗選手権で引退。ピップフジモト(株)ピップ商品開発センター所属。

やれることはすべてやった。今は満足感でいっぱいです。

9月に出場したレースを最後に、12年間の競技生活にピリオドを打ちました。今の心境は、「ああ、終わったな」という感じで、未練や後悔はまったくありません。やれることをすべてやった上での引退。「やりきった」という満足した気持ちです。

こんなに長く現役を続けるとは、正直思っていなかったですね。続けてこられたのは、オリンピック出場という目標がモチ

「苦しいときほど笑え」をモットーに、 女子スプリント界を駆け抜けた12年間。

ベージョンになったこと、あとは前向きな私の性格でしょうか。私のモットーは「苦しいときほど笑え」なのですが、現役時代もきつい練習をしているときほど笑顔を抑えささないように心がけていました。そんな風に楽しくやっていたから、ここまで続けられたのかなと思います。現役時代を振り返ってみると、挫折や壁にぶつかったことって、実はほとんどないんです。誰かに勝つとか負けるとかを考えないせいかも知れません。試合で走るときは無心ですね。オリンピックの舞台に立つことはできませんでしたが、ライ

バルであり友人でもある坂上香織選手と同期優勝した2004年の日本選手権をはじめ、思い出がたくさんできた楽しい12年間でした。

走ることに楽しさと喜びを感じた甲南大学時代。

陸上を楽しむこと、そして全力でやること。競技生活で大切にしてきたことの2つは、甲南大学時代に培われたものです。

陸上部の仲間たちとのびのび走れた4年間は本当に楽しかった。もし大学時代に厳しく押さえつけられながら陸上をしていたら、走ることを楽しめなくなり、卒業後は競技を続けていなかったでしょう。

大学2年生のときに阪神・淡路大震災を経験したことも、私にとってターニングポイントでした。練習どころではない状況になってしまったんです。一旦は陸上を諦めかけたんですが、震災によってたくさんの方が亡く



今は、「さびしい」より「ありがとう」。

本年7月8日をもって、創業約60年「くだおれ」のれんを下ろさせていただきました。ご賞賛にしてください。皆さまに深く感謝申し上げます。私自身としては、精一杯やってきました。閉業、悔いは一切残っていません。ですが、お客様の思い出がたくさんあったお店を閉めることに、ひたすらお詫びしたい気持ちです。その一方で、私がここまで続けられたのは、お客様や従業員も含め、いろんな方の助けがあったからこそ。閉業が決まり、皆さまからたくさんのお声をいただいて、感謝の思いもいっぱいです。

今思うと、私が仕事について悩んでいたときに助けてもらったのもお客様のひとことでした。まだまだ女将をこなすことに手一杯の頃、客前でかたい表情をした私を見たお客様が「そんなに緊張らなくてもええんやで、女将も楽しんでくれ」と声をかけてくださいました。さらに「いろいろな人と出会える、女将という仕事は、素晴らしいな」とも。その日から肩の力が抜け、女将を務めることに自信を持つようになったと思います。



事、素晴らしいな」とも。その日から肩の力が抜け、女将を務めることに自信を持つようになったと思います。



かきの き みちこ
柿木 道子さん
(旧姓山田)

1963年文学部卒。(株)くだおれ代表取締役。女将。甲南大学卒業と同時に(株)くだおれに入社。一度結婚退職をするが、1983年、父親の強い希望により復職。女性ならではの視点で自ら開発した数々の新メニューのヒットや、日本各地の郷土料理が月替わりで楽しめる「全国各地・地酒と食と観光フェア」を企画するなど手腕を発揮。2004年、代表取締役会長に就任。

お客様の喜ぶ顔が、私を動かす原動力でした。

私は甲南大学を卒業後、一度くだおれに就職しました。当時社長であった父が「くだおれ学校で社会勉強してから嫁に行け」と。そうして1年半家業を手伝った後、結婚、退職しました。そして女将としてくだおれに戻ったのは、18年間の主婦生活を経た後。そこには、時代とともに様変わりした道頓堀とくだおれの姿がありました。専業主婦だった私が女将を務めても、ベテランの従業員に認めてもらえるはずがありませんね。それでも私は「他の人以上に働きたい」という一心で下働きからはじめました。食についても勉強し、徐々にくだおれと外食産業が置かれた状況が把握でき、内装から食器、食材選びからメニューづくりまで、たくさんのお話を提案し始めました。女将として「お客様の喜びが私の喜び」を胸に、お客様が本当に楽しめる空間を提供することに心を尽くし、新メ

ニューの開発も、売れる商品ではなく、喜んでもらえる商品。めざして試行錯誤の連続。そのようななか、女性であり主婦でもある、私らしい視点で開発したメニュー「大阪ろまん(当時としては画期的なうどんと手巻き・にぎり寿司などのセット)」がヒットしたのです。気がつけば、従業員のみんなも非常に協力してくるようになりました。私は、はじめてのお客様にも常連の方にも、昔習った茶道の心「二期一会」で接してきました。振り返れば、その積み重ねの毎日でした。

父が惚れ込んだ甲南の「平生イズム」

私の家は、一人を除いた兄妹5人が甲南大学出身なんです。そのきっかけは、初代学長の荒勝先生と父が知り合いだったことから。父は甲南の創立者平生先生の教育理念に惚れ込み、「うちの子供みんな甲南に入れます！」と(笑)。田舎で育った私に甲南のキャンパスはまぶしいくらい華やかでした。



柿木さんが大切なお客様にお送りしている手描きの絵はがき。

穏やかで人柄のいい方ばかりで、私も大満足でした。

これからも私らしく

父から受け継いで約25年、残念ながらくだおれは閉業しましたが、女将として培った経験は大きな財産です。これからも、この財産を生かして、例えば食育の活動など、食に関する分野で社会に貢献していきたいと考えています。

お客様の喜びが私の喜び。
「二期一会」を紡いだ、くだおれの25年間。



写真：神戸新聞社提供

あの先生は、今。

2009年、創立90周年を迎える甲南学園では、これまで数多くの先生が教鞭をとってこられました。教育者として、そして、ときに人生の先輩として多くのことを教えてくれたあの先生たち。今回の特集では、かつて甲南で活躍された先生の、今にスポットをあてました。



退職後も、アメフト部のアドバイザーとして、甲南大生にエールを送り続ける。

「甲南の素晴らしさは、学生たち。」

私は、惚れ込んでいます」

甲南在籍時は、文学部でアメリカ文学を教える傍ら、アメリカカンファットボール部 RED GANG の顧問もしていました。90年にアメリカイリノイ大学から元NFLヘッドコーチであったジョン・マコヴィック氏を甲南に招聘したときのこと。開口一番に「君たちは学生だ。だから、勉強の手を抜くな」と指導した言葉が、今でも忘れられません。一流の監督が一流たる所以は、確固とした人生哲学があるからこそ。退職後も縁あって、アドバイザーとして練習や試合に駆けつけています。毎試合プレイを記録し、一人ひとりの選手に「あの時のプレイが良かった」とか、「次も絶対勝てるぞ」と発破をかけるのが私の役目。昔も今も、褒めると、やる気になって頑張るのが、甲南生のいいところです。

また、私が教鞭をとっていたアメリカ文学の授業でも印象に残る思い出があります。レポートで「自分の人生とオーバーラップしたアメリカ文学の作品について書け」というテーマを出す、あるアメフト部の学生がヘミングウェイの『老人と海』を挙げたのです。その理由として、「巨大魚と孤軍奮闘した老人は、最後負けてしまったが、実は負けたのではない。彼は、負けない精神を学んだからだ。僕はアメフト部で、仲間とともにその精神を学んだから」と書かれており、それは、それは素晴らしいレポートでした。アメリカ文学を通して、人間や社会の深い部分を読み取ってほしいという私の想いを、彼らは見事に体現してくれているではありませんか。やはり、甲南大学の素晴らしさは、そんな学生たちです。礼儀正しく、思いやりがあつて優し

い、人間としての魅力にあふれた学生たちばかり。退職して今なお、甲南の RED GANG に惚れ込んでいるのも、そんなところにあるのではないかと思います。彼らに囲まれている、私もまだまだ論文を書かなければいけないなど、意欲がわいてくるのです。

アメリカ文学の教授として、アメフト部の相談役として、長きにわたって活躍。

25年の長きにわたって文学部でアメリカ文学の教鞭をとり、代表作『白鯨』で知られるアメリカの作家メルヴィルの研究者としても多くの著書を執筆。厳しいけれど、温かくて、独特のユーモアに包まれた先生の人柄は、学生たちからも人気がありました。一方で、RED GANGの顧問としても活躍。イリノイ大学ジョン・マコヴィック監督の招聘のほか、海外交流プログラムの立案など、甲南の国際化にも尽力いただきました。

現在もRED GANGのアドバイザーを務める
谷本 泰三先生
(1967～1992年在籍)

「硬と軟の両面を備えて甲南生」



家業である京都の老舗料亭を営む
松井 明太先生
(1960～2005年在籍)

伝統と革新をともに大切に江戸からの老舗料亭を今日に発展させる。

享保3年創業、今年で290年を迎えた京都の料亭「ちもと」を営んでおります。お客様に昔ながらの伝統の味を伝え、京都の文化や美意識を少しでも味わっていただければと思っています。しかし、ただ伝統を受け継ぐだけではありません。今の時代に適った革新的な経営手法も取り入れ、文化を広く伝えていくことが私の使命です。甲南大学で教育・研究を行った、情報技術を駆使して科学的に経営を分析する経営理学。それを、今まさに実践しているといったところでしょうか。例えば、人材育成において

地域へ、世界へ、日本料理を通して京の伝統文化の普及に貢献。

甲南大学での専門は経営理学。「どんな人にもいいところがあり、そこを見れば必ず仲良くなれる」という信念を持ち、そのざっくばらんで親しみあるお人柄で、学生から慕われていました。現在は京都の老舗料亭「ちもと」の代表に。その経営に携わるだけでなく、地域で世界で日本料理を通して京都の文化を広く伝える活動をされています。京都の夏の風物詩である「京都鴨川納涼床」の地域ブランドの取得にも尽力されたほか、日本料理アカデミーのメンバーとして、日本料理の世界の普及にも貢献されています。

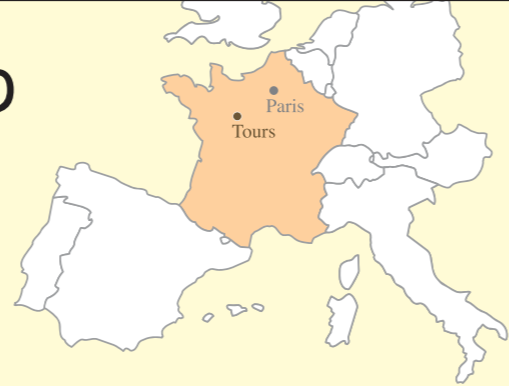
も、この業界で独自の方法を採用しています。うちでは、八寸場や焼き場など、持ち場をひとつずつ卒業する、日本料理固有の修業方法を改め、1年目からすべての持ち場を担当させています。京料理は、料理人が一人前になるのに10年かかると言われていたのですが、それは決して合理的ではなく、今の若者にとっても魅力あるものではないかもしれません。そのため、「5年で一人前」になるためのマニュアルづくりを実践。献立づくり、芸術性や季節感、器や材料の知識、経営センスなどが総合的に問われるなか、一人前になるにはどういった知識や技術が必要かを纏めました。一生懸命がんばってくれた者には、どんな活躍の機会を提供したいと考えています。現実の経営の場では、大学で教えていた経営理学の理論以外に、そこに介在する「人」について考えることも非常に重要なのです。私も経営の実践を重ねながら未だ勉

強している次第です。45年お世話になった甲南大学の思い出は数えきれません。ゼミ生には、「甲南とは、硬と軟の両方を備えてコウナン生だ」とよく冗談を言いました。「遊ぶことも大切だぞ」と。つまり、いろいろな経験、人との出会いを通じて柔軟な思考を身につけてほしいということですね。いち早く他学部履修を取り入れて学部間の壁がないところや、学部を超えて教員・学生の交流が活発なところ、そんな自由で柔軟な学風は、甲南ならではの良さではないでしょうか。よく人当たりがいいのが甲南大生と言われますが、それも環境変化への対応力の表れ。今でもかつての教え子たちと会いますが、人生には紆余曲折も多いなか、その柔軟性をもつてしなやかに生きる姿は頼もしいかぎりです。そんな甲南の良さを大切にしてほしいと思います。

Topics



11月に開講された甲南大学公開講座「京都花街文化と九鬼周三」では、この名料亭「ちもと」で座敷遊びを体験するフィールドワークが実施されました。



“芸術の本場”に挑む乙女たち

本校生徒には、地元トゥール市にあるコンセルバトワール(フランス国立高等芸術学校)の試験にパスし、高いレベルで音楽やバレエを学ぶ者がいます。そこは、プロをめざす者も含んだ真剣勝負の場。このただでさえ過酷な条件のなかで、言葉の壁、人種や文化の違いによる孤独感・疎外感にも直面しながら、困難を一つひとつ乗り越えていく彼女たちの姿がそこにあります。今回は、自らの夢に向かって逞しくもひたむきに“芸術の本場”での勝負に挑む生徒たちをご紹介します。



Piano
Kisaki Miyagi

音楽を通じて語学を習得
高等部2年生 宮城 妃(ヒナノ)

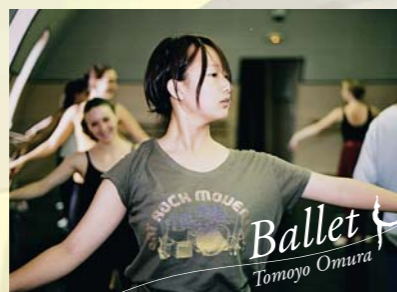
コンセルバトワールに通い、私を得たものは語学です。全ての授業をフランス語で受けることは、フランス語が好きな私にとってとても幸せなことです。今年から室内楽の授業も受け、フランス人とたくさんコミュニケーションがとれ、友達も増えて、毎回のレッスンがとても充実しています。現在は、2月の演奏会に向けて大きな曲に挑戦しています。



Violon
Yurika Shirai

音楽は世界共通
高等部1年生 白井 友理子(バイオリン)

私はコンセルバトワールでバイオリンを学んでいます。地元のような年齢のフランス人が通っていて、私はそこに混ざってフランス語と一緒に授業を受けています。最初は、フランス人に囲まれてすごく緊張しました。そして何より、とても怖かったです。しかし、人間誰しもピンチに追い込まれると何とかしてコミュニケーションをとることができるのだというのを学びました。コンセルバトワールでは仲間と一緒に演奏することができます。そこでたくさん友達をつくれます。優しい人は「大丈夫？」とフランス語で声をかけてくれます。私はどんなに言葉がわからなくても、音楽は世界共通ということを改めて実感しました。これからさらにフランス語や英語を勉強して、コンセルバトワールだけでなく世界中の人たちと交流し、友達をたくさんつくりたいと思っています。



Ballet
Tomoyo Omura

実力の世界で得たもの
高等部2年生 大村 知世(バレエ)

この辛く厳しい世界に入れたことを私は幸せに思います。それは、評価してもらおうことの重要性、自信を持つための努力がどれだけ必要なのか身をもって体験することが出来たからです。また、自分の居場所を守るための苦しさから解放してくれたのは周りの友達でした。その優しさに気づけたのもコンセルバトワールに通っていたおかげだと思います。実力の世界、や、自分の魅せ方を学んだだけでなく、違う国で何かに打ち込むことの難しさや厳しさも私の大切な体験へと変えることが出来ました。自分を成長させ、それを表現する力に近づけたことをコンセルバトワールに感謝します。私はバレリーナの姉たちと一緒に学べたことを誇りに思い、夢へ前進して行く力の糧にしていきたいと思っています。

幅広く活躍する、文化系クラブに注目!

個性を尊重した自由な教育を掲げる甲南高等学校・中学校は、クラブ活動が活発。そこで今回は生徒一人ひとりの個性が集まり、幅広い活動を行う3つの文化系クラブをレポートします。

ブラスアンサンブル部



国際的なイベントで演奏を体験。全国大会では団体・個人ともに入賞。

2008年3月、「音楽交歓会Music Brings Us Togetherプログラム」によりハワイ演奏旅行に参加。ル・ジャルダン・アカデミー校などの音楽交流や、アラモアナ・ショッピングセンターなど合計10箇所で演奏を行いました。行く先々で歓迎を受け、日本では経験できない楽しい演奏ができました。また、現地ではホームステイを経験し、国際交流・理解の大切さを学ぶことができ、音楽だけではなく、充実した経験ができました。さらに8月の「Japan Student Jazz Festival 2008」(SJF2008・全国大会)では、中学の部で神戸市長賞(団体第1位)を獲得し、個人でも白石裕俊、陸 悠、鈴木大元、小池勇輝の4名が入賞。高校の部でも中学に続き、神戸市長賞(団体第1位)を獲得しました。これは、昨年に続き2年連続の快挙であり、部員一同大いに盛り上がりました。また、個人賞においても高校2年の樋口 滯が個人賞とパークリー音楽院賞を受賞し、団体・個人ともにSJF2008では甲南が大活躍をしました。

顧問の先生からのコメント
石川保則先生
クラブのモットーは「共に喜ぶ」ですが、今回のダブル受賞はレギュラー部員だけではなく、部員全員で喜びを分かち合えたのではないかと思います。

未経験から始めた生徒が、個人大会で入賞するまでに成長。

同好会から部に昇格してまだ4年足らず。現在部員は13人です。ほとんどが未経験者で、授業で興味を持って入部しています。成績は、今年8月の高野山競書大会において、高校1年の長谷川裕一が金剛峰寺賞を受賞し、表彰式に招待されました。また2月に開催される国際高校生選抜書展では、4年連続近畿地区優秀校に選ばれ、個人でも入賞・入選を果たしています。その頑張りが認められ、芸術新聞社『墨』編集部より取材の依頼が舞い込みました。「放課後は墨まみれ」と題し、書道部で頑張っている高校生を紹介してくれます。クラブの雰囲気



顧問の先生からのコメント
中谷幸弘先生
書道を通じて「ものづくりの楽しさを感じてほしい」という願いが一番にあります。また、豊かな想像力は、機転が利くことにもつながると思います。今回の取材は、彼らにとって貴重な経験であり、大きな自信になったのではないのでしょうか。私もとても嬉しく感じています。

められ、芸術新聞社『墨』編集部より取材の依頼が舞い込みました。「放課後は墨まみれ」と題し、書道部で頑張っている高校生を紹介してくれます。クラブの雰囲気をじっくり味わいたいということで、5時間程の取材となりました。みんな照れながら、緊張しながらも、どこか誇らしげで、大いに励みになりました。記事は、『墨』11月・12月号(11月1日発行)に掲載されました。



俳句甲子園に7年連続出場! 数々のテレビに出演し、一躍有名に。

去年に引き続き、今年も文芸部は俳句甲子園全国大会に出場し、ベスト6に進出しました。昨年のベスト3という成績には及ばなかったものの、予選を勝ち抜いたことと、論戦で勝てるようになったことは大きな成長です。また、テレビというメディアが甲南文芸部に注目してくれたことも、文芸部の活動をより多くの人々に知ってもらう機会になりました。今年出演した番組は、「タモリのジャポニカログス」、「NHK俳句甲子園」、「よゐこ部」などです。ぜひ来年も活動を継続してほしいのですが、残念ながら現在3年生しかおらず、文芸部を引き継ぐ2年生、1年生の部員がいません。ですから、この記事を読んでもくれた2年生、1年生で、文芸部に興味のある方がいたら、明日からでも文芸部に入ってほしいと願っています。

顧問の先生からのコメント
和田圭樹先生
文化系クラブでも「大会」という目標があれば、懸命に努力する面白さがあります。顧問も勝つための手助けをしますが、顧問に言われてやるのではなく、あくまでも生徒が自分自身の力で何かを築いていくことが、文芸部の良さです。今年の俳句甲子園では、顧問は生徒の句を一切修正しませんでした。だからこそ、生徒たちは勝ったときの喜びを忘れられなかったと思います。

典雅なる世界へ誘う

古典文学の魅力

「古典文学」と聞くと文法が難しかったり、古語がわからなかったりと敬遠しがちです。しかし、中にはおもしろい説話や心が動かされる物語もたくさんあります。奥深くて不思議な古典文学の世界。その楽しみ方や学校では教わらない古文の魅力について、田中教授がユニークな視点で語ります。



文学部日本語日本文学科
田中貴子 教授

奈良女子大学文学部、
広島大学大学院文学研究科修了。
文学博士日本文学。専門は日本中世文学。
主な著書に『(悪女)論』(紀伊國屋書店)、
『あやかし考』(平凡社)、
『百鬼夜行の見える都市』(新曜社)など。
第16回日本古典文学会賞・
第26回サントリー学芸賞受賞。

学

校で習う古典文学
実はもっとおもしろい!?

私は京都で生まれ育ったこともあり、幼い頃から説話や古い伝承を当たり前のように入ってきたり、歌舞伎や能なども観に行ったりしていました。また、母がいわゆる文学少女だったので、子どもの頃の私にいろいろな話を集めた本の読み聞かせをしてくれました。その中には、古事記から江戸落語まで簡単でわかりやすい話もあり、私はそれを聞かされるうちに自然に古典に親しんでいきました。そんなふうにごく当たり前のように古典文学がある環境で生まれ育ったことが、結果的に今の研究へとつながるきっかけになっているのかもしれない。

愛

してやまない
古典文学を
もっと広めるために

今年には源氏物語千年紀ということもあり、各メディアでは色々な形で『源氏物語』が取り上げられていますね。私の住んでいる京都でもさまざまなイベントが催され、賑わいを見せています。少し残念なのは、みなさん口々に『源氏物語』を話題にされていますが、実際にその原文を読んだことがある方があまりいないということです。できることならば、誰かが現代語に訳したのではなく、ぜひ原文を読んでいただきたいと思えます。その時代のそのままの言葉に触れることによってしか得られない、古典文学ならではの魅力というものにきっと気づいていただければ幸いです。

知

られざる中世の
古典文学の“あやかし”

「あやかし」とはもともと中世の言葉で、これが近世になると「妖怪」などと表現されるようになるのですが、中世においては「あやかし」は近世の「妖怪」とはやや異なります。いちばんの違いは、近世以降は妖怪がキャラクターとして作られ、その姿かたちをイメージされるようになったことです。例えば、はじめて妖怪の姿を(絵)にした鳥山石燕の『画図百鬼夜行』^{※注1}の中には、よく知られている「雪女」などの妖怪が描かれています。現代に生きる私たちでも「雪女」といえば、誰もが同じような姿かたちを想像しますが、それはこういった近世以降の絵師の作品によってそのイメージを共有できるようになったからです。しかし、中世

るはずで

私は、古典文学の魅力をより多くの人に知っていただくためのきっかけを作ること、研究者としての役割だと考えています。「あやかし」や「官能」などを切り口にした古典文学の紹介もそういった取り組みのひとつなのですが、今後に向けての新たな切り口として漠然と考えているのが、古典文学に登場する奇人・変人列伝です。古典文学に登場する昔の人には変わった人が多く、題材としてとてもおもしろいものになりそうだと考えています。また、現在は『京都論(仮)』という本を執筆中でして、京都特有の文化を考察しながら、「真の京都」に迫っていくという内容です。こちらにもご期待ください。

※注1 1776年(安永5年)に刊行された妖怪画集『前篇陰』『前篇陽』『前篇風』の3部構成となっており、日本の伝承にある有名な妖怪の姿はここからきているものが多い。

田中教授が好きな説話

「こぼれて匂ふ花桜かな」

■解説

よく晴れた昼間、藤原道長の娘・彰子が住んでいたお屋敷は美しい桜が咲き乱れていた。そこで「こぼれて匂ふ花桜かな」と詠む声が。だが、辺りには誰もいなかった…。

田中教授は「怪異は大抵おどろおどろしく、怖さを感じさせるものが多いのですが、この一文はどことなくやわらかくて、風雅な雰囲気漂っていて好きです。」と話してくださいました。



田中教授の 著書



「セクシィ古文!」

国文学者 田中貴子 × 漫画家 田中圭一
メディアファクトリー/定価:本体 900円

最新刊

■解説

古文を見る目が180度変わる! 知的で官能的な24場面を厳選した古文入門書。

田中教授よりメッセージ

「この中に書かれている物語は厳選したものばかり。原文には現代仮名づかいでルビもふってあるので、ぜひ原文を読んでみてください。また、服装や身なりなど細かい部分も当時の資料を調べて絵を描いていただいたもので、そういうところにも注目してください。」



「古典がもっと好きになる」

田中貴子 著/岩波ジュニア新書/定価:本体 740円

■解説

学校で習う古文に興味を持ってなくても、実は古典はおもしろい! オカルト、恋愛などさまざまな角度からわかりやすい現代語訳で古典を紹介。

甲南大学は古典文学を学ぶのに最適!



研究室から瀬戸内海を航行する船を眺めることができます。実はこの景色、摂津の港から大阪湾を経て明石〜播磨を通り、九州は大宰府へと辿り着く、歴史的にも非常に深い意味のある眺めなのです。街並みは変わっても海路にはその時代と通ずる趣があります。そんな景色を眺めることができる甲南大学は、古典文学を目で見てふれることができる場所だと思います。

そして今、現役生たちは…



12月の定期演奏会に向けて、合宿で練習に励む現交響楽団。

1年間の集大成となる毎年12月の定期演奏会。「最後の演奏となるので、気合いを入れて猛練習中です」と、意気込みを語る4年次の小柳さん。しかも、第48回となる今年の定期演奏会は、第1回甲南平生国際フォーラムの開催にあわせて、世界的音楽家であり、甲南学園の先輩でもある貴志康一の楽曲を演奏することが決まっている。「光栄なことですが、それ以上に先輩方が培ってきた交響楽団の名を汚さないような演奏をめざします」と、力強く語ってくれた4年次の酒井さん。「歴代の先輩たちが演奏した楽曲にも挑戦します。先輩たちよりもスゴイと言われるように、対抗意識を持ってのぞみます」と4年次の松本さんも意気揚々だ。そんな4年次をサポートするのが岩下さん、森さん、松尾さんの3年次たち。演奏以外にも人事や広報活動などを一手に引き受ける3人は、「先輩たちが悔いのない演奏ができるように、精一杯のサポートをしていきます」と話してくれた。続く、2年次の鎌田さん、原田さん、野上さんたちは、「今回もちろん、私たちが4年になる第50回定期演奏会でも、一生の思い出となる演奏をしたいですね」とコメント。そして1年次の樹本さん、原さん、橋本さんたちも



「先輩たちの足を引っ張らないように、がんばっていきます」と練習に励んでいる。大きな舞台にこそ積極的に挑む、そのチャレンジ精神はしっかりと培われているようだ。



取材にご協力いただいた方

卒業生：岡 芳蔵さん('56年経卒)、河井豊夫さん('56年経卒)、村上敏雄さん('73年法卒)、野本哲平さん('74年営卒)、牧野一徳さん('74年理卒)、伴 卓馬さん('83年理卒)、佐藤英雄さん('88年理卒)、北野洋平さん('96年理卒)、東浦康信さん('99年法卒)、東浦弘子さん('99年文卒)
現役生：小柳俊朗さん(文4)、酒井祐治さん(法4)、松本由紀さん(文4)、岩下理絵さん(営3)、森 麻衣子さん(文3)、松尾友里さん(文3)、鎌田祐也さん(文2)、原田勇佑さん(法2)、野上光雄さん(文2)、樹本久嗣さん(営1)、原 薫(営1)、橋本圭祐さん(法1)

甲南クラブステップ



挑戦が生んだ交響楽団の歴史。その精神は、受け継がれる。

楽譜の書き写しが、部活動の中心だった創部当初。

「こうきょう(甲響・交響)」の名で親しまれる甲南大学のオーケストラ部。甲南大学文化会交響楽団。今でこそ、部員総勢90名を超える大所帯のクラブですが、53年の発足当時はオーケストラ部と呼ばにはなされて少くない11名からのスタートでした。創部当時の中心メンバーで、56年卒の岡さんは「当時の学生にとって楽器はもろろん、楽譜ですら高価な品物。部員全員でお金を出して一冊だけ購入し、それを手分けして書き写しました。思えば部活の8割が楽譜の書き写しでした」と当時の振り返ります。また、岡さんと同じく創部当時のメンバーであった、56年卒の河井さんは「書き写した楽譜で演奏すると1小節抜けてたり、1行まるまる抜けてたこともありまして」と冗談交じりのお話も。予算

も練習場所もない交響楽団が「砂漠のオーケストラ」と呼ばれたことからわかるように、いかに恵まれない環境だったかが伺えます。

交響楽団発足から1年後、遂に記念すべき第1回定期演奏会が開催されました。前述の岡さんは「喜びや達成感よりもきちんと演奏できるか、不安の方が大きかったです。実際演奏すると散々で、途中で演奏がストップするハプニングもありました」と初ステージを懐かしみます。さらに、「決して満足のできる演奏ではありませんでした。演奏する曲のレパートリーも豊富になり、オーケストラとして着実に実力をつけていきます。83年卒の伴さんが「団員たちの憧れだった、ブラームスの4番を演奏できたことが一番の思い出ですね。人数は もちろん、高度な技術が必要で、演奏のできる楽団は限られましたから」と、話すほど当時の交響楽団のレベルは高いものでした。「88年卒の佐藤さんは「金管楽器、弦楽器、打楽器など、楽器のパートによって演奏したい曲が違いため部員同士でもめたことも。その分、多くのパートを必要とする



記念すべき旧第1回定期演奏会のパンフレット。



エキストラの演奏者を学外から招いていた創部初期の定期演奏会。

団員たちの意識を変えた、プロ指揮者との出会い。

70年代前半、時代は学生運動の真っ直中。甲南大学も激動する時代の渦に巻き込まれていました。学生運動に参加する学生も多く、74年卒の野本さんは、「授業もままならない状況のなか、隙を見ては練習していました」と当時の状況を話します。一方で、交響楽団は部員も順調に増え続け、総勢50人にのぼるまでに拡大。さらに、女性の進学率が高まった時代を象徴するかのよう、部員の約半数は女子学生でした。「音楽系のクラブだけが出演する甲南ミュージックフェアに参加するなど、活

る難しい曲にも挑戦できたので練習への意欲は高まりました」と、当時を思い返します。こんな恵まれた環境のなか、ライバルたちと切磋琢磨しながら着実に実力をつけることが、交響楽団の活動をさらに勢いつけることとなります。

いつの時代も、伝統は受け継がれて。

時代は平成に移り、96年卒の北野さんの年代では名実ともにさらに躍進することになり、自分が指揮を振った第7回全日本オーケストラ大会に参加し、講評委員会賞を受賞したことが印象深い思い出です。この頃より、交響楽団は活動の場を学外へと広げていきます。さらに、交響楽団が縁となつて結婚された、99年卒の東浦さん夫

妻の年代になると舞台は世界へ。「阪神・淡路大震災があった年に入学し、震災の復興を支援するチャリティコンサートに招待され、ニューヨークのカネギー・ホールでベートーヴェンの第九を演奏しました。大舞台だからこそプレッシャーに負けず果敢に挑戦するという、交響楽団の伝統を胸に実践したからこそ成功だったと思います」と、長い歴史のなかでも初の海外への挑戦を熱く語ってくださいました。芸術を愛し、芸術を推奨する荒勝文策初代学長の後押しで誕生した甲南大学交響楽団。今年で創部55年を迎えるその長い歴史は、プロとの交流、学外での演奏、海外への進出と常に新しいことへの挑戦がありました。そして、その精神は、これからも後輩たちへと確かに受け継がれていくことでしょう。

クラブの歴史

- 1953年 ● 当時グリーククラブのメンバーであった有志により「オーケストラ部」として創部
- 1954年 ● 旧第1回定期演奏会シューベルト／交響曲第8番「未完成」他(翌年も定期演奏会を開催するも、以後6年ブランクを経る)
- 1961年 ● 第1回定期演奏会シューベルト／交響曲第8番「未完成」他
- 1962年 ● 広島へ演奏旅行 ● 東京へ演奏旅行
- 1967年 ● 沖縄(当時米国)へ演奏旅行
- 1970年 ● 第10回定期演奏会ベートーヴェン／交響曲第5番「運命」他
- 1972年 ● 第12回定期演奏会ベートーヴェン／交響曲第3番「英雄」他(台風によるホール停電で演奏が中断されるハプニング発生)
- 1978年 ● それまで年1回であった演奏会が年2回となる。
- 1979年 ● プロ指揮者湯浅卓雄氏を客演とし、サマーコンサート開催以降第30回定期まで)
- 1980年 ● 第20回定期演奏会ヘルリオーズ／幻想交響曲他
- 1990年 ● 第30回定期演奏会シオスタコーヴィチ／交響曲第5番「革命」他
- 1992年 ● 第7回全日本学生オーケストラ大会に初出場し、講評委員会賞を受賞(以降計4回出場)
- プロ指揮者現田茂夫氏を客演とし、第32回定期演奏会開催以降第40回定期まで)
- 1995年 ● 震災にて団員1名が犠牲となる ● スプリングコンサートを「復興を願う神戸の街から私たちの思いを込めて」とし、特別演奏会を開催
- 1996年 ● ニューヨーク・カーネギー・ホールでのチャリティコンサートに参加(ベートーヴェン／交響曲第9番「合唱付き」を演奏、2000年も渡米し演奏)
- 1998年 ● 交響楽団が学長賞を受賞
- 1999年 ● ソプラノ歌手、佐藤しのぶ氏を招き、第39回定期演奏会開催
- 2000年 ● 第40回定期演奏会チャイコフスキー／交響曲第6番「悲愴」他
- 2008年 ● 12月20日(土)19時、神戸国際会議場こさいホールにて第48回定期演奏会開催(予定)

第一線で活躍する卒業生に、ご自身の生き方についておうちがいきすこのコーナー。今回は、世界を飛び回るキャビンアテンダントの伊達香緒里さんにインタビューします。

甲南でサークルを立ち上げ、人との関係づくりを学ぶ。

小さい頃から、キャビンアテンダント(以下CA)になることが夢でした。テレビドラマの影響や、あの制服姿にも憧れて。甲南大学に進学したのは、CAの就職実績が良かったのもひとつ

の理由ですが、むしろ華があつてアットホームな校風が気に入ったからです。CAになるためには、英語は必要最低条件ですから、大学時代重点的に勉強しました。英検やTOEICなどの試験も受け、1カ月間オーストラリアへ短期留学もしました。

と、友達や先生が応援してくれる雰囲気甲南にはあつて。ですから、留学だけでなく、今しかできない多くのことに挑戦しましたね。学外では、阪神タイガースのマスコットガールも経験。3年では仲間とテニスサークルを立ち上げました。これは、大学での大切な思い出であり、この経験から学んだ人

JALキャビンアテンダント 伊達 香緒里氏

1993年甲南大学文学部英語英米文学科卒業



今も思い出すのは、 同じ目標を持つ 仲間たちと ともに前進した甲南時代。

との関係づくりが、現在の仕事のペースになつています。

サークルを運営する上で一番苦心したのが、いかに人の心をつかむか。そして、いかにメンバーが同じ目標、同じ気持ちを持って活動していけるか。クラブと違って強制力がありませんから、誰もがこのサークルにやりがいや面白さを感じてくれないと、入部してくる人もいませんし、毎回の練習にも来てくれません。ですから、特に、新入部員の勧誘には、パワーを費やしませんでした。人の心をつかむことってこんなにも大変で、勧誘する人間の魅力も問われるものだという事を知りましたね。練習するときはしっかり練習し、練習後やオフのときはメンバー同士の交流を充実させる、そんなメリハリあるサークル活動を運営できたことや、メンバーが一丸となって勧誘活動を行った甲斐もあり、サークルは50人を超える規模になりました。決して大きなサークルとはいえませんが、卒業式で後輩たちが祝福して私たちを見送ってくれたことは、とてもうれしかったし、今でも忘れることができません。

一見華やかな キャビンアテンダントの世界、 しかし、その裏では――。

私自身がそうであったように、CAの華やかな雰囲気は憧れて就職を志望する方も多いと思います。しかし、現実にはイメージと正反対で、厳しく肉体的にもハードな仕事ですね。もう気力と体力が一番大事!という感じで(笑)

日々の勉強も欠かせません。機内では、企業のトップの方や政治家の方とお話できる機会も多いものです。ただし、自分自身の知識がなくては、きちんとした会話ができせんから、政治や経済、企業の最新情報と、新聞を読むことや情報収集を怠りません。また、一流のサービスを受けたことがなければ、一流のサービスを提供することもできないもの。そのためにも、フライト後の海外での休養日は、現地評判のホテルやレストランにできる限り足を運んでいます。体力的には厳しいのですが、大切なお仕事や旅行で飛行機を利用されるお客様に、機内ではリラックスしていただきたいので、本当のホスピタリティを勉強しています。

このように、華やかさの裏で地道にコツコツ準備することの大切さを教えてくれたのも、テニスを楽しむだけでなく、運営までやり遂げた甲南時代のサークル活動があったからこそ。機内に乗るまでの努力をしてはじめて、お客様の前に立て、いいサービスが提供できると思つています。

失敗だつてたくさんしているんですよ(笑)そんなときは、誠心誠意お詫び

して、どうすれば起きてしまったトラブルを解決できるか一生懸命考えます。落ち込みますが、すぐに気持ちを切り替えるように努力しています。クヨクヨしている顔をお客様にお見せできませんからね。

良いサービスに求められる、 「協調性」と「個性」。

サービス業は、カタチがないからこそ難しく、だからこそ奥が深くて面白いんだと思います。個人的に、私がこの仕事で大切にしているのは、「協調性」と「個性」の両面です。クルー同士が協力しないとお客様に良いサービスは提供できません。でも、私だからこそできるサービスもほとんど提供していきたい。メンバーと一緒に力を合わせるときと、自分の個性を生かすとき、その2つのバランスを大切にしています。

現在では後輩を指導する立場にもなり、毎フライト違うクルーとも協働して仕事をするなかでしみじみと思いつくのが、甲南大学に集まる人々の優しさや、他人に対する思いやりの深さ。甲南時代にCAをめざした仲間同士も、本来はみなライバルなのですが、情報が教え合ったり、しんどい時に助け合ったりしながら、ともに目標に向かいました。競争するのではなく、みんなで前に進もうとする甲南の精神は、CAになった今も日々の仕事に生きています。そんな甲南のいいところをこれからも受け継いでいってほしいと思います。

伊達さんは、JALの国際線を中心に乗務。世界中のお客様にホスピタリティあふれるサービスを提供している。

入社後、国内線乗務を経て、現在はヨーロッパ線を中心に国際線に乗務。ビジネスマン、高齢の方、修学旅行の学生さんと、さまざまなお客様が利用するため、乗る人の気持ちに立ったサービスを信条としている。一方で、フライトの間には、ロンドンとニューヨークで同じミュージカルを見比べたり、ヨーロッパの古城めぐりにも出かける行動派でもある。

Kaori Date

1993年甲南大学文学部英語英米文学科卒業。
株式会社日本航空(JAL)にキャビンアテンダントとして入社。
国内線乗務を経て、現在はヨーロッパ線を中心に国際線に乗務。



「どんな状況でも前向きさ、笑顔、気配り、常識が求められます。CAは、体力と気力が勝負の仕事です」。



フライトを終えて休養日に行った、イタリアのリゾート地にて。





今年で6年になるスーパーキッズ・オーケストラは、僕が芸術監督を務める兵庫県立芸術文化センターをベースに、全国からの応募でオーディションによって選ばれた子供達が、5月から定期的に練習を開始し、富士河口湖音楽祭での合宿を経て、8月の終わりに兵庫県立芸術文化センターの大ホールで行われる演奏会でそのシーズンを締めくくることが主な活動です。僕の愛情を一杯に受けた彼らの音は、年々とても感動的なものになっています。今年の4月から、僕が初めてのレギュラー番組を持った「題名のない音楽会」でも、記念すべき僕の1回目の放送で、その時のオーケストラとして登場してもらい、全国の音楽ファンに彼らの魅力を紹介することが出来ました。これも支援をしてくださった甲南大学をはじめ皆様のお陰であり、心から感謝の思いで一杯です。

子供達と音楽を創ることは、とても創造的な仕事です。音はその瞬間に生まれ、またその瞬間に無くなってしまいます。だから美しくもあり、醜くもあり、楽しく、悲しく、愛おしいのです。そして聴く者も、演奏する者も、心のひだひだを揺り動かす音楽に出会えたなら、いつまでも記憶に残る一生の宝物になるのです。音楽は素晴らしい。彼らは一人ひとり、本当に才能溢れる子供達です。ですが、それだけでは美しい音は生まれません。人と人が力を合わせ、大事に一つ一つの音をコツコツと創っていくことの素晴らしさ。生きていくこともそうでしょうが、人と人が響き合うということは、オーケストラという形を通して、社会や人生そのものを考えていくことのように思えてきました。

6年目を迎えたスーパーキッズ・オーケストラですが、今年は大きな変化がありました。それは、子供達で意見を出し合い、僕の指導を一方的に受けるのではなく、自分たちで練習を行い始めたことです。このオーケストラは、全国で募集をかけ、厳しいオーディションに受かった小学4年生から高校生までで構成されたメンバーです。メンバー同士の年の差は、僕ら、おじ様の歳の価値より何倍にも値し、一年でも学年が違う子供達で意見交換をすることは、なかなかやさしいことではないでしょう。ですが、今まで僕と演奏会を作ってきたSKO経験者を中心に、新メンバーとどうしたら仲良くなれるのか、どうしたらいい音がするのか、また、どうしたら感謝の気持ちがお世話になった方々に伝わるのかまで話し合ってくれたようです。みんなで考え、それは音楽をするというだけでなく、今まで僕と6年間作り続けてきたSKOの伝統が、更に一步、子供達の足で進み始めたように思います。

次の世代に何を残すか。これは僕が最もやらなければならないことと感じています。それは、僕の人生において、両親はもちろん、大きく僕に影響を与えてくれた、様々な先生方への恩返しであり、今、僕が指揮者として、少しは影響力を持つような立場に立ったことを僕自身が自覚し、こうした想いに御賛同くださる甲南大学の皆さんと共に、真剣に取り組む長期的なプロジェクトにしたいと考えています。10年とかではありません。まさに次の世代にまで受け継いでくれてこそ、この音を創るという行為が不変の素晴らしいものであり、それは人と人が共に生きていくことの賛歌となっていくのではないのでしょうか。だからこそ、このオーケストラは、夢を持った大人の子供達への真剣な教育プロジェクトなのだと思います。



甲南学園では、「Next generation(次の世代を担う人たち)を育成する活動を支援しています。その中のひとつが甲南大学の新キャンパス愛称「西宮CUBE」のお隣、兵庫県立芸術文化センターで開催されたコンサート「佐渡裕とスーパーキッズオーケストラ(SKO)」です。このたび、甲南学園に佐渡氏からメッセーが届きました。



●佐渡裕プロフィール
1961年京都市太秦生まれ。「1万人の第九コンサート」や「ヤング・オペラ・コン서트」など、国内外で精力的に活動。現在「題名のない音楽会」(テレビ朝日系列)の司会を務め、テレビを通じて音楽の魅力を広げている。

世界を舞台に活躍する指揮者 佐渡裕氏からメッセーが届きました!

Sadao Sado

甲南高等学校ラグビー部が全国大会県予選で4年ぶりの決勝進出を決め、11月23日(日)ユニバー記念競技場に

甲南高校ラグビー部が全国大会県予選で決勝進出!

http://www.club.konan-u.ac.jp/judo/08kai-gaiensei_syasin1.html



歴史と文化をつかった人々

甲南学園の
学園理事長は今13代目。その内「旧制甲南OB」が初就任し、しかも3代続いた時期がありました。学園発展と震災復興の重大な時で、3人の力量が問われましたが、甲南生の時に創立者・平生先生の訓話を直接聞き、その精神を身につけ、就職先で学び、会得した社会動向への対処法を生かす理論と手腕で難問を乗り越え、《私学の雄》の礎を確固たるものにされました。その3人の紹介です。

進藤 次郎氏

第7代(昭和46年~58年)理事長、元朝日新聞社専務取締役

明治38年4月生まれ。大正15年(第1回)甲南高等学校文科卒。平成11年没。

平生精神を一身に引き継ぎ、進藤さんほど「甲南を愛した」人はいないと慕われました。多忙な会社員時代でも「今、甲南はどうなっている」といつも気に掛け、閑職に退いた後の昭和46年、請われて卒業生初の理事長(非常勤)を兼務しました。

学園は丁度大学開設後20年、学園改革に多くの課題があり、財政も深刻になっていた反面、施設・設備拡充が急務という難問山積の時でしたが、法人本部を設け新設ポストの専務理事に日常業務を統括執行させるなど、数々の新方策を立てて乗り切りました。在任期間は現在までの各理事長で最長の11年半、信任されていた証拠です。

34年前「同窓会館」として開館した「平生記念館」も進藤さんの発案で

す。学園を一層発展させるには卒業生が《学園の将来を考えて意見を出し合い進言する》場が必要だと、旧平生邸跡利用を決めたのです。甲南小学校も第1回卒業の進藤さんは児童の時、出入りした自宅近くの平生邸跡地が、他人に渡るのを防ぐ手段でもありました。

小学校卒業時に甲南中学校が未開校で、東京の成蹊中学校を経て甲南高校1期生に里帰り。走力と旺盛な実務精神で、ラグビー、陸上競技の中心選手として、インターハイで大活躍。京都大卒業後は朝日新聞記者、後に編集局長、専務。大広社長など。



第8代(昭和58年~平成3年)理事長、元ユニチカ専務取締役

大正8年3月生まれ。昭和14年(第14回)甲南高等学校文科卒。

六甲アイランドの用地取得、フランスにトゥレーヌ甲南学園創設は、学園初の常勤理事長・久保田さんの時代です。《偏差値》が教育界に導入され始めた頃でしたが、久保田さんは「大学に入ったら偏差値は忘れる」。その策として、尊敬出来る教授といつでも対話できる《1室1ゼミ方式》のゼミ棟(10号館)を建設、成果を上げました。

校地問題が浮上し、旧甲南女子高校跡の南グラウンド取得に続き、神戸市との取り引きで六甲アイランドにスポーツ活動の場を整えました。文化面も、偉大な大先輩・画家の長谷川三郎、音楽の貴志康一両氏

の業績を世間に広める行動を起こしました。

学園の法人機構や業務の改善整備、強化にも力を入れ、広報委員会を設置、募金活動体制の充実を図るなど、着々と学園運営を整える一方、学費の大幅改定を実施、これがその後の学園財政の健全・安定化に大きく貢献したのです。

ラグビー部員だった久保田さんのスポーツ哲学は「楽しかったら良いのではない。苦しまなければ連帯感や本当の喜びは味わえない。選手はある程度頭が良くないとだめだ」として入試制度検討委員会に方策を委嘱、後日のスポーツ推薦入試実現に至りました。京都大卒業後の久保田さんは、日本レイヨン、ユニチカ両社役員、大蔵屋社長。

久保田 淳一氏

小川 守正氏

第9代(平成3年~10年)理事長、元松下住設機器社長

大正11年1月生まれ。昭和17年(第17回)甲南高等学校理科卒。

小川さんが理事長だったから、学園の阪神・淡路大震災復興が、いち早く完了・成功しました。平成7年1月17日早朝、約1km離れた自宅から駆けつけた小川さんの目に、学園の象徴・1号館の無残に崩れた姿が。2・3・5号館なども、芦屋の中高に行ってもその惨状に呆然。しかし創立後最大の危機に、小川理事長の決断は早く、即日プレハブ仮教室の建設を発注。さすがは住設機器社長経験者でした。

この即決が、将来を見据えた学園復興をスムーズに運ばせ、更に与謝野馨・文部大臣(当時)の視察時に、創立精神や卒業生の社会貢献の数々を力説して数十億円の特別援助金を獲得したことも、小川さんの「功績」と言えるでしょう。

小川さんは理事長退任後も創立者・平生三郎顕彰に力を入れ、平生先生の人柄、教育精神、社会奉仕の考え等を纏めた著書を次々に出版、先生の考えが先進的で素晴らしかったことを、改めて学園内外に知らせた功績も大。その中で小川さんは《人間が成長するには、心に内に尊敬する師を持つことが第一と痛感した》と書いておられます。

甲南生時代は山岳部員。九州大航空学科卒。松下電器産業に入り、電子レンジ事業部長の後、松下住設機器社長。学園退職後に、平生先生創設の甲南病院理事長も。



今回も浜田邦夫さん(1953年甲南高等学校、1957年甲南大学経済学部卒)の協力です。

て、5年連続38回目の優勝を狙う強豪報徳学園と対戦しました。これに勝れば花園への出場が決定するという観客の大きな声援と期待は、甲南高校ラガーにとって励みとなる反面、猛烈なプレッシャーとなったことでしょう。決勝は惜しくも11対14で敗れましたが、彼らの健闘に大きな拍手を贈りたいと思います。



新疆ウイグル自治区からの留学生、アディナ・アンワルさんが博士号(社会学)を取得

このたび、新疆ウイグル自治区から甲南大学大学院へ留学していた安蒂娜・アディナ・アンワルさんが、人文科学研究科博士後期課程「応用社会学専攻」を修了し、博士号を取得されました。アディナさんは、1991年来日、修士課程在籍時に結婚・出産。まったく環境が異なる日本の生活の中で、日本語の習得及び子育てと並行しての研究、勉学は大変だったようです。「甲南の先生やたくさんの方々に助けをもらって、おかげです。本当に感謝しています。将来は、ウイグルで大学の教員になりたいです」と語るアディナさん。彼女の夢が実現できれば、甲南とウイグルの大学との間で交流が生まれ



一日甲南大学生として70、88歳の18名の方々が甲南キャンパスライフを体験

10月21日(火)、甲南大学では、70、

チョコの魅力を堪能！ ショコラティエ、土屋公二氏の特別講演

10月11日(土) ネットワークキャンパス東京において、フランス甲南学園トウレーヌ提携講座「ショコラティエ土屋シエフが語る魅惑のショコラ」を開催しました。今回は、カリスマシヨコラティエとして名高く、フランス甲南学園トウレーヌ高等部・中等部在籍生の保護者でもある土屋公二氏にご講演いただき、定員をはるかに上回る方々が参加。フランスでの修行時代の知られざるチョコレートの魅力などの貴重なお話しに加え、氏が経営する人気店「テオプロマ」のチョコレートなどの試食もあり、大変好評でした。なお、この模様は、「ソロモン流」(テレビ東京系)でも紹介されました。



OG 粉川妙さんによる スローフード入門が開催

9月30日(火)、神戸市須磨区「和風荘」にて粉川妙さん(H10文卒)による講演会「心と体に効くスローフード」が開催されました。イタリア旅行をきっかけに、現地の食材及び料理に魅せられ、ついにはイタリアに住みスローフードを研究するようになった粉川さん。地域や旬の食材で安全なものにこだわり、家族の温もりを感じる食卓をつくることの素晴らしさ。また、健康づくりや文化継承などを担う「食」の役割など、その重要性を教えてくださいました。
http://butakoi70.exblog.jp/



貴志康一の代表作「竹取物語」がオーケストラ曲になって蘇りました

このたび、著名な指揮者である守山俊吾氏(国立ソフィアフィル常任客演指揮者)により、貴志康一の代表作「竹取物語」がオーケストラ曲にアレンジされ、10月14日(火)、その楽譜を甲南学園に寄贈していただきました。



● 体育会戦績報告 ● 健闘お疲れさまでした!

- 【陸上競技部】
 - JOCジュニアオリンピックカップ'08 日本ジュニア・ユース陸上競技選手権大会4位入賞 (於:鳥取コカコーラウエストスポーツパーク)
 - 10/17(金)〜19(日)
 - 石本麻衣(文1)・・・女子400m第4位
 - 10/21(火)〜24(金)
 - 石本麻衣(文1)・・・12年女子400m優勝
 - 石本麻衣(文1)・・・12年女子400mハドル優勝
 - 石本麻衣(文1)・・・12年女子200m第2位
 - 三宅啓文(文1)・・・11年男子5000m第3位
 - 甲南大学Aチーム・共通女子4×1000mリレー第3位
- 第26回レディス陸上競技大会で優勝 (於:愛知・瑞穂公園陸上競技場)
 - 11/3(月)祝
 - 柏木文恵(文3)・大岡沙織(文2)・竹内亜喜(當1)・石本麻衣(文1)・・・共通女子スウェーデンリレー優勝(兵庫学生新記録)
- 【準硬式野球部】
 - 近畿六大学準硬式秋季リーグ戦で3季連続優勝
 - 近畿六大学準硬式秋季リーグ戦において、8勝2敗で3季連続、通算41回目の優勝を決めました。これにより出場した秋季関西地区大学準硬式野球大会では、5年ぶり2度目の優勝を飾りました。
 - 準硬式野球部の2名が、近畿六大学準硬式野球連盟より3つの部門で表彰を受けました。
 - 田村桂二(経2)・・・最優秀選手・首位打者(2部門)
 - 井上健太郎(文1)・・・最優秀防衛率
- 【アーチエリー】
 - 第35回関西学生女子大会
 - 10/10(金)
 - 沼彩子(當1)・・・30mの部優勝
- 【弓道】
 - 第32回女子東西学生弓道選抜対抗試合
 - 11/24(月)祝
 - 西軍10名のメンバーに選ばれた屋敷尚子(法4)が的中率1位で表彰
- 【ホッケー】
 - 第41回兵庫県選手権
 - 11/23(日)
 - 男子決勝は延長戦で2-1として関学大を破り、県優勝を果たしました。
- 【ラクロス】
 - 1部昇格が決まりました
 - 11/23(日)
 - 関西学生ラクロスリーグ1部入れ替え戦が行われ、近畿大学を下し、1部昇格を果たしました。

甲南大学の教員と卒業生が執筆した 新刊レビュー

オーナー企業の経営

食料教材編者
甲南大学経営学部教授
中央経済社 ¥2,600 (税込)

アタマコトバの75調

秋沢晴光 著
誠文堂新光社 ¥2,100 (税込)

職業を生きる精神

杉村芳美 著
甲南大学経済学部教授
ミネルファ書房
¥3,150 (税込)

伊藤忠の滞欧日録

松方蔭子 編
妻におくつた
九十九枚の絵葉書
松方蔭子 編
清水弘文堂書房
¥2,100 (税込)

20世紀世界の「負の遺産」を旅して

根津茂成 著
1978年甲南高等学校卒、1982年甲南大学法学部卒、1994年東京大谷通信部、1996年甲南高等学校中学校非常勤講師
明石書店 ¥2,940 (税込)

軽井沢の名もなき石仏(いしぶみ)たち

平賀二郎 著
1996年甲南大学経済学部卒
軽井沢三三舎 ¥1,050 (税込)

花と緑のふしぎ

田中修 監修
甲南大学理工学部教授
神戸新聞総合出版センター
¥1,260 (税込)

伊藤忠の滞欧日録

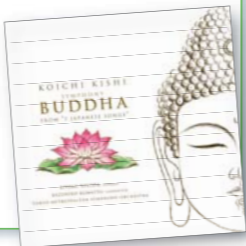
松方蔭子 編
妻におくつた
九十九枚の絵葉書
松方蔭子 編
清水弘文堂書房
¥2,100 (税込)

3名様

アンケートPRESENT

貴志康一作品 交響曲「仏陀」の復刻CD

旧制甲南高校が生んだ夭折の天才音楽家、貴志康一の作品、交響曲「仏陀」のCDを復刻いたしました。最新のデジタル・リマスタリング技術により音質を向上させ、ジャケットもリニューアルしています。この「仏陀」のCDを3名様にプレゼントいたします。ご希望の方は、同封のアンケートハガキにてお申し込みください。



応募締切 2009年1月15日到着まで

次号は2009年4月発行予定 甲南Today^{NO.32}

発行日/2008年12月10日
発行/甲南学園広報部
〒658-8501 神戸市東灘区岡本8丁目9-1
TEL (078) 431-4341 (代)
印刷/大日本印刷株式会社

キャリアセンタースケジュール

- 企業研究セミナー (11/13(木)・2009年1/14(水)・2010年度・2010年3月卒業新卒就職希望生を対象に、各企業がセミナー形式とブース形式で説明会を実施します。大学で企業と接するチャンスです。民間企業の就職を希望する学生は1社でも多く参加してください。
- 面接実践講座 (2009年1/6(火)・1/10(土)) 少人数制による模擬面接を通じて面接の重要ポイントを個別にアドバイス指導します。
- 企業研究講座 in TOKYO (2009年2/11(水)祝・12(木)※1泊2日) 首都圏で積極的に甲南大生を採用する予定の企業を招き企業セミナーを実施します。初日には、学習院、成城、成蹊、武蔵、北九州市立大学の学生とのグループディスカッションや東京で活躍する卒業生との交流を行い、2日目に合同企業セミナーを行います。
- 【会場】国立オリンピック記念青少年総合センター(渋谷区代々木)
- 【定員】70名

行事予定

- 1月
 - 授業再開(5日)
 - 2008年度授業終了(15日)
 - 後期試験(16日・30日)
 - 大学入試センター試験(17日・18日)
 - 貴志康一誕生100年記念シンポジウム(コサト)(18日)
- 2月
 - 入学試験E日程(1日)・A日程(2日・6日)・S日程(7日)
 - 父母の会課外活動表彰式(中旬)
 - 文化会リターズキャンプ(下旬)
- 3月
 - 2008年度卒業生修了発表式(3日4日)
 - 入学試験B日程(5日)
 - 2008年度卒業生学位記授与式(25日)
 - 成績・受講関係書類交付および在学確認証交付(23・4年次・大学院)(26日・27日)
- 4月
 - 2009年度入学宣誓式・父母の会新入会員歓迎会(1日)
 - 2009年度授業開始(6日)
 - 学園創立90周年記念式典(21日)
 - 対学宮院全学運動競技総合定期戦開会式